

## 第2期滋賀県スポーツ推進計画に基づく施策の実施状況について

(令和4年度実績)

### 第2期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成27年12月に公布、施行した滋賀県スポーツ推進条例に基づき、平成30年度から令和4年度までの5年間の計画期間とする「第2期滋賀県スポーツ推進計画」を平成30年3月に策定した。

・ 目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、滋賀県民であることに誇りを感じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現 ～スポーツで滋賀を元気に！ 滋賀の未来を創る！～

・ 基本方針

- I スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！
- II スポーツの力で「元気な地域」を創る！
- III スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

・ 政策

- 1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実
- 2 スポーツの持つ多様な価値の共有
- 3 スポーツ施設・環境の充実
- 4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
- 5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大
- 6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出

・ 計画期間

平成30年度～令和4年度 (5年間)

### ■指標の達成状況

・ 達成率

【(実績-基準) / (目標-基準) × 100】により算定

達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。

・ 評価

滋賀県基本構想実施計画(第1期)に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」、未集計は「N」として表している。ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、令和3年度は80%以上、令和4年度は100%以上のものを「A」、令和3年度は80%未満、令和4年度は100%未満のものを「B」としている。

評価	令和3年度	令和4年度
A：年次目標達成	4項目	4項目
B：年次目標未達成	10項目	12項目
N：未集計	2項目	0項目
合計	16項目	16項目

達成率	未達成項目数
80%～100%未満	0項目
60%～80%未満	4項目
40%～60%未満	1項目
20%～40%未満	0項目
0%～20%未満	7項目

第2期滋賀県スポーツ推進計画 指標の達成状況（令和4年度）

評価	項目数	指標の内容 (下線は滋賀県基本構想実施計画に位置付けがあるもの)	計画策定時	令和4年度の状況	目標 令和4年度※1	達成率 (%) ※2
A 年次目標 達成	4	・しがスポーツ大使の就任数	26者 (H28)	50者	50者以上	100
		・アスリートを採用した県内企業数	32社 (H28)	53社	45社以上	100
		・ <u>スポーツボランティア登録者数 (本県ボランティア登録システム利用)</u>	334人 (H28)	4,115人	2,000人以上 (2,000人以上)	100
		・総合型地域スポーツクラブで指導する有資格スポーツ指導者数	267人 (H28)	447人	370人以上	100
B 年次目標 未達成	12	・ <u>成人の週1回以上のスポーツ実施率(男)</u>	35.6% (H28)	56.7%	65% (65%)	71.8
		・ <u>成人の週1回以上のスポーツ実施率(女)</u>	36.8% (H28)	49.2%	65% (65%)	44.0
		・子どもの1週間の運動・スポーツ実施時間(土日を含み、平日授業を除く) 【小学5年生】(男)	590.7分 (H28)	543.3分	625分	0
		・子どもの1週間の運動・スポーツ実施時間(土日を含み、平日授業を除く) 【小学5年生】(女)	347.2分 (H28)	321.5分	382分	0
		・障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.1% (H29)	38.4%	65%以上	1.1
		・県内の公共スポーツ施設の利用者数	6,617,409人 (H26)	5,146,796人	7,300,000人以上	0
		・民間団体等の実施するスポーツイベントへの県の後援件数	155件 (H28)	106件	200件以上	0
		・スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数(暦年)	1,002万人 (H28)	983万人	1,200万人以上	0
		・滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844人 (H29)	89,860人	100,000人以上	74.1
		・国体総合順位	39位 (H29)	20位	8位以内	61.3
		・県障害者スポーツ大会の参加者数	773人 (H29)	581人	1,000人以上	0
		・オリンピック・パラリンピックのホストタウンを通じて海外との交流を始めた市町数	3市 (H28)	5市	6市町以上	66.7

※1 滋賀県基本構想実施計画に位置付けがある場合は、当計画における令和4年度の年次目標数値を（ ）で記載。

※2 滋賀県基本構想実施計画に位置付けがない指標の達成率算定方法： $(実績 - 基準) / (目標 - 基準) \times 100$   
達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。

滋賀県基本構想実施計画に位置付けがない指標の評価については、達成率100%以上のものを達成(A)、100%未満のものを未達成(B)としている。

## 【基本方針Ⅰ】スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

### ■スポーツの持つ多様な価値の共有（政策2）

#### 【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H28)	R3	R4	R4 目標	達成率	評価
アスリートを採用した県内企業数	32 社	46 社	53 社	45 社以上	100%	A
スポーツボランティア登録者数(本県ボランティア登録システム利用)	334 人	3,823 人	4,115 人	2,000 人以上	100%	A

#### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 「SHIGAアスリートナビ」による県内企業への就職斡旋を行うとともに、県スポーツ協会が雇用主体である「スポーツ特別指導員配置事業」を通じ、トップアスリートの獲得に努めた。

(令和5年4月入社 協力企業 33 人、スポーツ特別指導員 19 人)

##### 【今後の方向性】

「SHIGAアスリートナビ」を活用し、アスリート採用企業数の拡充に努めるとともに、県スポーツ協会において「スポーツ特別指導員」の雇用を活用し、トップアスリートの獲得を促進する。



(SHIGAアスリートナビ入社選手  
中尾 咲月((株)関西みらい銀行))

- スポーツを「支える」立場から、各種スポーツ大会の運営に関わるボランティアの育成に取り組む「しがスポーツボランティア協議会」において、ボランティアに関する基礎知識や救命救急講習など多様なジャンルの研修をオンラインも活用しながら実施（研修実施回数 12 回）したほか、各種団体等が主催する大会やイベント等について活動の場を提供した。（活動者数のべ 893 人）また、著名オリンピックを招いたボランティア交流会を通じて、活動促進につながる機運を醸成することができた。

##### 【今後の方向性】

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ等の大規模スポーツイベントでボランティアの中心として活躍いただくために、研修会等を通じてボランティアの養成を進めるとともに、多くの経験を積んでいただけるよう、活動機会の提供に取り組んでいく。



(ボランティア活動  
(びわ湖バレイスカイラン))

## 【基本方針Ⅱ】スポーツの力で「元気な地域」を創る！

### ■スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化（政策4）

#### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 高い競技力を有する企業や大学等を指定（16 団体 27 競技）して強化事業を実施し、第 77 回国民体育大会でもボート、ホッケー、バレーボール、バスケットボールの実業団チームや陸上競技の大学運動部、馬術のクラブが活躍した。  
また、医科学サポートスタッフを競技団体が実施する強化練習会に派遣し、滋賀県選手団のコンディション維持に貢献した。



（バスケットボール成年女子（滋賀銀行））

#### （企業・大学・クラブ支援事業 指定団体・競技数）

策定時(H29)	H30	R元	R2	R3	R4
12 団体 19 競技	12 団体 18 競技	12 団体 20 競技	16 団体 26 競技	15 団体 25 競技	16 団体 27 競技

- スポーツ科学を専門とする立命館大学とびわこ成蹊スポーツ大学に対し、競技力向上にかかる連携強化に向け、具体的な連携内容を明示し、協力依頼を行うとともに、県内大学に対して、わたSHIGA輝く障スポに向け不足するスタッフへの学生の参加を依頼した。

#### 【今後の方向性】

成年選手の競技力向上に向けて、引き続き、大学・企業等とスポーツ団体との連携・協働に取り組み、サポート体制を充実していく。

特に、大学に対しては、わたSHIGA輝く国スポ・障スポに向けた競技力の向上やスタッフ確保への協力依頼をより積極的に行う。

## 【基本方針Ⅲ】スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

### ■国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大（政策5）

#### 【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H29)	R3	R4	R4 目標	達成率	評価
国体総合順位	39 位	—	20 位	8 位以内	61.3%	B
県障害者スポーツ大会の 参加者数	773 人	562 人	581 人	1,000 人 以上	0%	B

※国体総合順位の目標について、滋賀県競技力向上基本計画では令和3年3月の改定において令和4年度目標を「10位台」としている。

#### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 3年ぶりの開催となった第77回国民体育大会では、本県は順位こそ県競技力向上基本計画で定める目標に届かなかったものの、総合得点や入賞数等で目標を上回ることができた。その一方で、今大会で得点をあげた競技のほとんどはこれまでより入賞実績のあるものに限られている。

4年ぶりの開催となった全国障害者スポーツ大会には、個人7競技48種目に出場し、39種目でメダルを獲得した。団体種目でも2競技出場し、ソフトボール競技で銅メダルを獲得した。

また、各競技団体が検討を行ってきた成年選手構想を集約し、今後確保が必要な選手数等を「成年選手確保計画」として取りまとめ、共有できた。

- 県内在住の小学5年生を「滋賀レイキッズ第9期生」に認定（40人）し、8・9期生とともに育成プログラム（計25回）を実施した。

ターゲットエイジの中から強化指定選手として指定証を交付（43競技793人）し、競技ごとに強化事業を実施するとともに、令和2年度に鹿児島国体の延期により影響を受けた選手に対しても、引き続き支援を行った。

また、「高校生トップアスリート支援事業」では、本県の代表として活躍が期待できる選手への支援を行い、優秀な選手の県外流出の抑止に努めた。

#### 【今後の方向性】

計画に基づく成年選手の確保や、本国体未入賞・未出場競技での得点獲得に向けた戦略的支援を通じ、わたSHIGA輝く国スポにおける目標である総合優勝の達成に向け取り組む。

併せて、わたSHIGA輝く障スポにおける目標である全種目出場に向け、不足する選手・スタッフの確保に取り組む。

県スポーツ協会所属の「スポーツ特別指導員」をはじめ、上位入賞が期待できる選手に対する個人指定強化対策を充実し、さらなる競技力の向上を図る。また、いわゆる「ターゲットエイジ」世代の高校進学に伴い、強化拠点校の機能を強化拠点校単位の強化から「国スポ選手の育成・強化」へシフトし、支援の重心を県代表となる選抜メンバーの強化に移行する。



（スポーツ特別指導員（水泳・飛込）  
板橋美波、伊藤洸輝）

## ■地域の特性を活かした大会レガシーの創出（政策6）

### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

○ わたSHIGA輝く国スポ・障スポの開催に向けて、全競技の会場地を決定するとともに、競技会場となる施設を整備する市町に対して支援を行った。

また、市町と連携したイベント啓発に加え、広報誌の発行やメディア、屋外広告など、愛称・スローガン・マスコットキャラクター・イメージソングを活用した様々な広報啓発活動を展開するとともに、令和4年7月に本県開催が正式決定したことを契機としたイベントの開催や大会専用ホームページをリニューアルするなど、大会開催の周知と機運醸成を図った。

#### 【今後の方向性】

各競技会の開催に向けた準備が円滑に進むよう、市町、競技団体に対する支援を行う。あわせて、2年前イベントの開催や公式ポスターの公募制作などに取り組み、さらなる機運醸成が図れるよう発信していく。



（開催決定イベント）